

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673000127		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	長岡京ケアハートガーデン グループホーム西山の郷 (1階だけ)		
所在地	京都府長岡京市奥海印寺三段畑8-1		
自己評価作成日	平成25年12月13日	評価結果市町村受理日	平成26年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanji=true&JigyosyoCd=2673000127-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれの個性を尊重しながら、日々を楽しく過ごせるようなレクリエーション等にも力をいれ、生活の活性化につなげる。
 体の不自由な方や忘れていく不安の中で時には焦りを感じておられるが、今出来る事を共に喜び合い、笑顔を引き出したり活力に繋がるような声かけや環境作りにも力を入れている。
 出来る事を十分に発揮できるように生活歴や嗜好、生活パターンなど、お一人おひとりをよく知ることに心がけている。得意なことや好きな事をレクリエーションに取り入れて、楽しみや喜びの輪を広げ、入居者同士の繋がりを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から12年を迎え、日々の散歩や行事、ボランティア等を通じ地域との良好な関係が築かれています。日々の暮らしを利用者と職員と一緒に楽しく過ごせるよう、外出やレクリエーションをはじめ様々な企画を通して利用者の力を引き出し、笑顔が見られる取り組みを行っています。また行政や医療との関係も密で、徘徊模擬訓練や認知症サポーター養成講座を通して協力体制を構築し、長岡京市独自の療養手帳を利用する事で、家族、医療、福祉の関係者がコミュニケーションを図り、利用者を支える事が出来ています。また、職員は看護師等にアドバイスを受けスキルアップに努めながら、多くの看取りの支援に取り組んでいます。事業所では外部評価を受審する際、ユニット毎に自己評価する事で理念やサービスの方向性を確認する良い機会と捉え振り返っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>・「個人の尊厳を大切に」「画一性、押し付けの排除」「地域社会との融合を図る」の理念を管理者と職員は共有し、お一人おひとりの暮らしの継続を心がけている。認知症により出来なくなった事もあるが、生きてこられた経験に学ぶ事は大きく、一生懸命生きておられる姿に共感にしてスタッフも生活を共にしている。</p> <p>・お一人おひとりがその人生において大切にされてきたものを共に大切にしており、それぞれに言葉がけしている。</p> <p>・医療面に関してもかかりつけ医を継続してもらい、地域の中で安心して生活して頂いている。</p> <p>・初詣やお花見等地域の神社などへ行き、馴染みの場所を大切にしている。お祭りなど地域の行事に参加出来る機会を大切に、地域の方との交流を大切にしている。また、書道など展示会への出品する機会を地域ボランティアが作って下さり、参加する事の喜びを感じて頂いている。</p> <p>・幼稚園児の訪問などから地域交流の温もりの時間や、キャロリングや琴などの音楽による楽しく癒される時間が提供されながら暮らしが支えられている。</p>	<p>設立時の理念が、現状に沿っているか職員間で検討した結果、設立時の理念が現在も大切に受け継がれています。地域に支えられながら生活出来ている事を念頭におき、「今を大切に」をモットーに支援にあたっています。外部評価を受審する際、各ユニットで話し合い自己評価する事が理念を振り返る良い機会となっています。</p>	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>・季節を味わえる作物や四季折々のお花を頂いたり、地域のお祭りや行事(お餅つき)等の時も気軽に声をかけていただき参加させて頂いている。</p> <p>・長岡京市文化行事、ガラシャ祭り等へ積極的に参加し楽しんでいる。幼稚園園児や中学生体験実習など、お互いが存在を大切にする時間となっている。</p> <p>・夏祭りの盆踊りには地域のボランティアが踊りに参加頂いたり、近隣の方々にお知らせをして参加を呼びかけ、交流の機会となっている。</p>	<p>自治会に加入し、情報を得て神社の行事や祭り等に参加しています。時期により幼稚園児が毎週のように訪問し利用者と触れ合う機会を持ったり、中学生の体験学習を受け入れています。地域のボランティアに交流会で歌や踊りを披露してもらったり、事業所で毎月書道教室を開いてもらい練習する中で、作品を長岡天満宮の書道展に出展している利用者もいます。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>・中学生の体験学習の時に認知症の理解に繋がる取組みを実施したり、見学者の対応や相談の窓口として地域の方々へ貢献出来るよう努めている。</p> <p>キャラバンメイトとして市の依頼より、認知症サポーター養成講座の講師を派遣している。</p>		

グループホーム西山の郷(1階だけ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月に一回運営推進会議が開催され、ユニットとしての現状を報告させてもらい、その場で聞かせてもらう意見や情報を大切に活かしている。また運営推進会議で話し合った事をユニット会議で報告、スタッフが共有する事でケアの向上を図っている。 	<p>運営推進会議は家族や地域をはじめ行政からは毎回、市担当者地域包括支援センター職員が参加し定期的に開催されています。家族交流会や行事と同時に開催する事もあり、様々な意見交換の場となっています。看取りや玄関の施錠についてなど、課題も一緒に検討し運営に反映させています。会議の内容は隔月に発行する事業所便りに掲載し、家族に報告しています。</p>	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議には高齢介護課・地域包括支援センター・民生委員等、市町村との連携がある。 ・地域のグループホーム連絡会ではグループホーム間での連携と共に行政や地域包括支援センターからの参加もあり、地域との連携を深める機会となっている。 	<p>市が主催する徘徊模擬訓練に協力したり、認知症サポーター養成講座の講師派遣を依頼されています。制度等でわからない事は市担当者に相談し迅速に対応してもらい、研修や地域の情報も発信され、日頃から協力体制を築いています。</p>	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・徘徊の方がおり、特に夕方からの行動は多くなるが常に所在確認をスタッフが声を掛け合い行ってそばに寄り添うなどして、安心・安全に努めている。 ・下肢筋力の低下や歩行が不安定な方には安全のために待ってもらうこともあるが、出来るだけ早く対応して気持ちや行動を閉じ込めることの無いように心がけている。 ・ふらつきや転倒の危険のある方等、ヒヤッとしたこと、はっとしたことを「ヒヤリはっと」に記入し、行動を把握する事で、行動を制限しないような見守りが出来るよう努めている。 	<p>日中は、玄関や入り口の鍵は掛けないケアの実践に努めています。日々の何気ない職員の言葉が利用者の拘束になっていないか、空き時間を利用して行うミニカンファレンスで話し合ったり、ユニット会議で研修しています。不適切な言動があればヒヤリハットに記載し、再発防止に努めています。</p>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフは外部研修・自主研修を通して虐待防止法等、認知症ケアについて学んでいる。 ・ユニット会議においても研修し、スタッフで共有しケアについて検討する機会を設けている。 ・常に利用者の視点に立って考える姿勢を大切にしている。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの原点として、権利擁護の視点に立ち、利用者の暮らしに関わらせて頂いている。 ・日常生活自立支援事業や成年後見制度については、外部研修の機会に受講する。 		

グループホーム西山の郷(1階だけ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・今年度は3名の新規入居の契約がある。ご本人やご家族の話を傾聴し、話し合いの中で課題を明らかにする事で、不安の軽減に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族、ご利用者の言及された事の真意を汲むべき姿勢に職員一同努めている。 ・運営推進会議にてご家族の意見を聞く機会がある。会議には行政の方の参加もあるので意見交換ができ、運営に反映させることが出来る様努めている。 ・苦情として言葉に出されていないことについてもご家族と接している時に感じた事は、迅速に申し送りにて改善している。	運営推進会議と家族交流会を同時に開催する事で、多くの家族から意見や要望をもらっています。福祉用具の取り扱いについての疑問や面会時の名簿の記載に対する質問、手すりの取り付け等の要望を受けています。これらは内容により個別で回答したり、ユニット会議で検討し結果を事業所便りで伝えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ユニット会議等が出た職員の意見や提案を、リーダーを通じて管理者に伝える事が出来る。 ・個人面談の機会もあつたり管理者がそばにるので、いつでも意見や提案が出来る環境にある。	職員は利用者と接する中でメモをとる習慣をつけ、日々の気づきをミニカンファレンスで話し合っています。それを基にユニット会議、リーダー会議、管理者会議、法人へと意見や提案が伝わる仕組みが出来ており、行事等の提案は個々に企画書を提出しユニット会議で検討しています。また定期的に法人担当者と個人面談し、悩みや希望を伝える機会を確保しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・福利厚生として、職員にポイントが支給され、買い物、旅行などに使用している。 ・資格習得へのサポートがあり、意欲向上に繋がっている。 職場レク等、食事界等を通じてスタッフ間の親睦を深める機会が設けられている。 ・人事偶制度の中で、役割ベースで資格進級がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修には個人で参加する場合もあるが施設として参加する場合もある。参加出来る様に勤務体制を調整している。 ・ユニット会議では、毎月の自己研修・研修の報告の分かち合い等で日常へのケアに活かすように努める。 ・1階フロアにおいては新しい職員が増えたこともあり、リーダーとのコミュニケーションの時間を設ける等、新人をOJTの中で育成している。		

グループホーム西山の郷(1階だけ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・京都府グループホーム協議会や乙訓地区グループホーム連絡会に積極的に参加し、意見交換・情報の共有に努めている。 ・圏と域の他事業所に見学に行く機会もあり、スタッフ間の交流や意見交換等も行なっている。 ・当社の全社研修に施設長研修、リーダー研修、スタッフ研修があり、階層ごとの交流がある。 		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・場所と周りの環境に慣れてもらうためにまずはスタッフとの良好な関係が持てる様、個人を尊重しプライドを傷つけない言葉がけと見守りに注意している。 		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人とご家族の思いと要望を受け止めて、援助計画に反映してケアを実践している。 ・環境の変化の様子もお伝えして、安心と新たな要望が言い易い関係作りと信頼関係を築くことに努めている。 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族として心配している事、して欲しい事は厳重に受け止めている。 ・ご本人の好む事、興味などを家族に情報としていただき、今までの暮らしの継続となるよう支援している。 		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的な動きを大切にしている。また自ら表現する事の少ない方にもアセスメントする事で、出来る事、出来ない事を把握し無理の無い提案をしてみても(テーブル吹き等)、生活感を感じてもらったり感謝の言葉を添える事により存在感や自信へと繋げている。 ・ご利用者の笑顔でスタッフは元気をいただき、またご利用者にとっては役割の出来ている事により、ご本人の活力源となっている。 		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・体調についてはもとより心身の変化についてもお伝えしてご理解をしていただく。一方的では無くまた心配をかけすぎない様に共に協力して、ご本人を見守っている。 		

グループホーム西山の郷(1階だけ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・年賀状や暑中見舞いを出される方のスタッフはお手伝いをして馴染みの方との関係を大切にしている。 ・ドライブに行った時には住んでおられたところを通ったりすると、思い出がよみがえったり会話がはずむ事もある。	友人や近隣の方、以前の稽古事の生徒等が訪ねて来られた際は、職員が会話の橋渡しをしています。家族の協力で歩こう会で活動していた利用者が活動を継続したり、馴染みの寿司屋へ出かけるなどの支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・スタッフは他者同士の関係作りの橋渡しをしている。 ・他者の好みや得意な事など他者同士を紹介しあったり、共通の話題を見つけて会話を繋げている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・自立に向かい、2007年1月に退所された方は、近くのマンションで家族の支えも受けて、一人暮らしを始めた。年月が過ぎたが、家族との絆を深めつつ、夏祭りの行事や今でも、顔を見せにきたり、スタッフとの出会いを大切にしている。また散歩時にも利用者との交流もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・思いや希望、意向の把握に努めている。ご家族より意見をいただきプランに反映させている。 ・日中の過ごし方や他者との関わり、レクリエーションを通じて出来る事や好みの発見等により、楽しみを広げられるよう支援している。 ・またアセスメントを行い出来る事や出来るための支援方法を考え役割を持ってもらう等、自己を肯定できたり自信に繋がられる様に努めている。	利用者の日々の快、不快から把握した気づきを業務日誌や長岡京市独自の療養手帳に記録し、ミニカンファレンスやユニット会議で検討しアセスメントに繋げています。外出等を通して、利用者の普段見られないような自発的な動きや表情を見落とさないよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・新しい入居の方にはセンター方式のシートを利用して、ご家族に生活歴、習慣、環境、好み等の情報提供のお願いをしている。 ・日々の関わりの中でもその人となりを引き出せる様会話を大切にし、またその行動からも情報を読み取り、ケースに記録していく。 ・各スタッフが知り得た情報はユニット会議で共有していき、ご本人の全体像に繋げていく。		

グループホーム西山の郷(1階だけ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の申し送りには気になるご利用者の体調・心身状態を伝え、フロア全体で見守っている。 ・歩行状態、排便状態等を観察して下肢筋力や体調の把握に努めている。 ・夜間の入眠状態、体調や便秘等が気持ちに影響していないか等も考えながら、1日の過ごし方を考えていく。 ・1日をどう過ごしたいかをご本人に聞いて、共に組み立てる事も出来る。天気の良い日には散歩や外気浴にて気分転換をしている。 		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族の方にも現状をお伝えしながら、ご意見をお聞きしたり、月一回のユニット会議におけるケアカンファレンスによって、スタッフの意見やアイデアを確認し、それらを援助計画に盛り込んでいくことを基本に作成している。 ・新規利用者についてはセンター方式にて記録している。センター方式の意味を知り、活用出来る様取り組んでいる。 ・体調変化、直ぐに対処すべきことが生じた場合には、ミニカンファという形態をとり迅速にケアに当たっている。 	利用者や家族の希望を基にユニット会議で話し合い、ケアプランを作成しています。毎月モニタリングを行い、6ヶ月毎に再アセスメントしプランを見直しています。療養手帳を基に医師や看護師の意見がプランに反映されています。モニタリングの内容がプランに沿ったものになっておらず、変化に応じたプランの変更は十分になされていない状況です。	期間に関係なく、状況に変化が生じた場合は見直し、現状に沿ったケアプランが作成される事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・援助計画は定期的にモニタリングを行い(必要時には随時行い)、再アセスメントを行い、計画・援助内容の見直し、次なる援助計画の作成に努めている。特別な変化(入院等)の場合は、その時点で現状に即した介護計画の作成に努めている。家族の意向、看護師や主治医の視点をもらいながら、本人本位の計画の作成に努めている。 ・日々、一人ひとりの様子やケアをケース記録として残している。その記録を元に、アセスメント、モニタリングとして記録に残しながら次なる援助計画に向かっている。 ・記録と同時に日々のお一人おひとりの申し送りはスタッフのコミュニケーションと実践に結ぶものとなっている。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・当所では、居宅支援事業所と訪問サービスがあり、ホームヘルパー、ケアマネージャーも在籍し、在宅での智慧、他施設の智慧を教してもらったりすることができる。利用者の状況に伴い、歩行器、徘徊防止センサー等福祉器具の情報提供、導入使用に繋げている。 		

グループホーム西山の郷(1階だけ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・現時点では、地域の高齢者バンドの訪問等、地域のボランティア等に協力を頂き充実した生活の支援につなげている。また、年2回の避難訓練における消防との連携は安心安全への協働となっている。 ・月に一回、書道のボランティアの先生が来られる。併せて週に一度の練習日も設け、上達が喜びとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・基本的にはご本人・ご家族の希望のかかりつけ医の受診体制が整備され、安心して受診してもらっている。心身の現状の把握と今後に向けてのケア等につながっている。 ・必要に応じてかかりつけ医の他に歯科医、整形外科医等、地域の専門医の訪問診療と連携がある。	これまでのかかりつけ医の継続を基本としています。家族と受診する場合がありますが、ほとんどの利用者が個々の状況に応じ、内科を含め歯科や専門家医の往診を受ける事が出来ています。地域独自の療養手帳を通じ、家族や職員と医療関係者が意見交換できる仕組みがあり、適切な受診支援がなされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・非常勤看護師による医療管理をしている。 ・予定ではない週においても診てもらったり相談出来る体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院されたご利用者には、退院後の生活がよりスムーズになっていただけるよう、安心に繋げる様に病院に行っている。 ・基本的にはグループホーム職員は第三者扱いとなり個人情報の関係で、情報をいただけないため、ご家族と連携し、ソーシャルワーカー・看護師等と密に連絡を取り、現状を確認し退院後のケアを含めて情報の交換をする。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ご本人及びご家族の意思確認により、ターミナルケアを実施する。 ・ご家族の方の今後の考え等を聞かせて頂きながら、必要な方には文書でターミナル時の対応を確認している。 ・ご家族の協力や医療職との連携により、人生の結びの時間を最後までその方の尊厳を大切にできるケアに努めている。	入居時に看取り指針を交わした上で、終末期を迎えるに当たって関係者で話し合い、再度終末期支援に関する同意書を交わしています。終末期に入っても医師や看護師の指導の下、排せつや入浴も利用者や家族の希望に沿って支援しています。看取りを重ねる中で職員は看護師等にアドバイスを受け、スキルアップできるよう取り組んでいます。	

グループホーム西山の郷(1階だけ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急マニュアルを常時スタッフルームに掲げてあり、スタッフ同士で確認している。また、他ユニットの方で緊急事態発生時の様子も朝礼等で共有してもらい応急手当、初期対応への自覚が日常的にも深められるようにしている。 ・救命講習も受けるよう努めている。 ・救急時には緊急持ち出し書類として備えられている。(薬や既往歴、現病歴等利用者の情報が纏められている) 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・災害マニュアルの確認と共に消防署の協力を得て避難訓練を毎年2回実施している。利用者お一人おひとりの状況に合わせて、スタッフが避難の順番等を確認している。施設管理者が、地域に協力をはたらきかけている。 ・避難の妨げや火災の防止のために必要機器を点検している。 	年に2回消防署の指導を受け、利用者も参加しての昼夜を想定した避難訓練を実施しています。ベランダを避難場所としており、避難ばしごを用意しています。訓練の際には近隣に案内を配る事で地域の参加を得ています。運営推進会議でも参加を呼びかけたり、報告を行っています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・お一人おひとりの誇りやプライバシーを大切にされた言葉遣いや対応を心がけている。 ・排泄時や入浴時等の羞恥心等にも配慮し、気持ちよく過ごしていただけるよう心がける。 ・一人の言葉や動作の中にその方の人生の歴史が刻まれている。それらの重さを大切にしたいと願い、傾聴し、その方の理解につなげている。その方の存在の肯定を何よりも大切にしている。 	法人やユニット会議で研修や勉強会を行い、利用者の誇りやプライドを傷つける事が無いよう努めています。声かけはゆっくり伝え、介助の際にも説明し行動を伝えるよう心がけ、その人を尊重した対応に努めています。耳の遠い利用者にはメモを渡したり、記録はスタッフルームで書くなど、プライバシーに配慮して支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・何よりも利用者お一人おひとりの表現を受け止め、納得して次の行為に結べるコミュニケーションを大切にしている。 ・選択出来る様提示する方法を取ったり、意思表示の難しい方には入浴時の衣類と一緒に選んだり、配茶事の飲み物を選んでもらったり等、ご本人の好みやその時の気持ちを大切にしている。 		

グループホーム西山の郷(1階だけ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・「今日は何をして下さるのですか。」「今日は歌を歌いたいです」「百人一首をしたい」「家に帰らにゃあいかん。」お一人おひとりの思いとことば、自由に動けなくて何をしたらよいかわからないと訴える方、あまり皆と合わせるのが苦手な方、気持ちと現実の隔たりがありつつも、何よりも安心できる居場所を求めておられるお一人おひとりの思いと安全を願い、日々の流れを生活の中心におき、無理なく形に結んでいけるように支援に努めている。ゲームをしている方もいれば、その場にながら新聞を読む方、また入室してごろ寝をしたりする方、安心してそれらができる環境の創造を大切に支援し、見守らせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・自己決定できる方は、外出時、来客時、お稽古時等には化粧、服装の整えをしてその時と場を大切にしている。月一回は美容師が訪問してくださり、その方に似合ったカット、顔そり等をしてもらっている。 ・起床時、入浴時には身だしなみ、服装等一緒に整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ねぎを上手に切って下さる方がいらっしゃり、お願いをしている。 ・立って出来る方が少なくなっているが座って出来る事、テーブル拭きや盛り付けなどを一緒に行って、自分達も関わったという気持ちがより食事を楽しみにしている。	栄養士がたてた献立に沿って、業者から食材が届き、ユニット毎に調理しています。利用者と一緒に下ごしらえや後片付けをし、味見をもらう事もあります。白玉団子やロールケーキなど、おやつ作りは利用者にとって楽しみの一つとなっています。食事時間はやさしい音楽をかけ、利用者と職員が同じテーブルに着き会話を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養管理については栄養士がサポートしている。お一人おひとりの状態や体調による個人差を鑑みながら毎回の食事量を記録し、習慣、好み等も考慮して、必要な方には刻んだり、ミキサーにかけたり等の工夫もして食べ易く、バランスもよい状態で食してもらえるように支援している。 ・適切な運動量の確保による相互作用を心がけている。 ・毎月月初に体重測定を行い、栄養士に報告している。		

グループホーム西山の郷(1階だけ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・うがいに緑茶を利用して、除菌やさっぱり感に繋げている。 ・嚥下時にむせ込みのある方等は、毎食後の口腔ケアにより口腔内の清潔を保持している。また、口腔ケア時に義歯の状態を見守り、必要に応じて受診につなげている。 ・自分で歯磨きをされる方は、声かけ・見守りをすることで、磨き忘れがないように支援している。 		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・尿意・便意の訴えがあればすぐにトイレに案内しスムーズな排泄につなげている。訴えの無い方は、お一人おひとりのしぐさの観察や排泄パターンに応じたトイレの声かけを行い、トイレでの排泄が行えるように支援している。 ・下肢筋力が低下している方には二人介助で出来るだけ便座に座ってもらい、気持ちの良い排尿・排便を支援している。 	車椅子の利用者も二人介助でトイレ誘導し、重度になってもトイレ等で排泄が出来るよう支援しています。利用者の表情やしぐさからも個々のパターンを把握し、早めに誘導しています。お腹を温めたりマッサージをしたり、トイレに座る習慣をつけ自然排便を促し、気持ちよく過ごせるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化と共に自力排便の困難な方も増えて、かかりつけ医より緩下剤使用の方も多くなっている。入浴時で体を温めたり腹部マッサージをして腸の動きを助けたり、おやつにホットミルクやさつまいもを使ったお菓子を出したりと工夫をしている。そのお一人おひとりの状態をみながら、水分の摂取、繊維の多い食べ物の提供等の工夫をしている。 ・また適度に身体を動かす等により便秘を予防している。緩下剤服用によりすっきりとした排便になる方もあり、その方に応じた便秘の予防と対応を工夫している。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・時間や順番などのきまりはなく、毎日が入浴可能日になっている。入りたい時に入れるように、一回一回一人ひとりの気持ちを大切にしている。 ・排泄状況、体調への配慮をしながら、身体の清潔保持、心身のリフレッシュを大切にしている。入浴時は羞恥心への配慮をしながら利用者とのコミュニケーションにより、お互いの気持ちの交換を楽しむ時となっている。 	毎日入浴の準備がなされ、体調に応じて一般浴や機械浴で好きな時間に入浴できるよう支援しています。時には同性介助にしたり家族の応援を受けるなど、気持ちよく入浴してもらっています。好みの石鹸やシャンプーも自由に使えるよう支援しています。	

グループホーム西山の郷(1階だけ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・季節により体調が異なる方、冬場は咳がでやすい方、乾燥肌にてかゆみの訴えがある方など個々に室温湿度の工夫を行い、日中の休息のリズムをとってもらう等の支援も大切にしている。 ・夜間歩行不安定な方は転倒防止のために、トイレ時の見守りを徹底して安全を確保しながら安眠につないでいる。 ・入眠時間が遅い方には空腹感がみられ、ホットミルク等を提供すると気持ちも落ち着き穏やかな入眠につながっている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・お一人おひとりの持病と服薬の目的、副作用等を理解してスタッフが管理を行っている。 ・定期薬以外に服用する風邪薬等は、改善等症状を見ながら、かかりつけ医の指示を確認していく。 ・投薬の間違い等がないように、処方箋管理表及び服薬管理表の徹底記入をしている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・習字、合唱をしていた方等好きな事得意な事、日々の生活の中に取り入れている。歌が好きな方は歌ビデオに集中し、手拍子をたたきながら歌ったりして集中、充実した時間をすごしている。 ・気候に応じて、近回りの散歩、ドライブ、ガーデンティータイムやランチの時間等、外気に触れる喜びと共に気分の転換を図っている。 ・梅ジュースを作ったり、干し柿用に渋柿の皮むきをしたりと、出来る事を活かしながらみんなと語らい、季節を感じて楽しみを広げている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・天候のよい日は朝の散歩を希望、近回りの散歩を実施支援している。花の水やりなど、その日その日の希望で戸外での活動も大切にしている。庭のテーブルでゆっくりとくつろぎながらお茶の時間も持つように努めている。 ・季節に応じて、近くの神社へのお花見(初詣、梅、桜、紅葉)、コスモス畑への散歩、ドライブでは四季折々の景色を楽しんでいる。 ・家族と外出してお食事に行く方もおられる。 	個々の希望に沿って散歩に出かけ、時期によってははれんげやコスモス畑に毎日花を見に出かけています。最近では車に乗り合わせて花見等のドライブに出かけています。家族と一緒に自宅近くを散歩したり、外出に出かける事もあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・現在はお金の管理が個人的には出来なくなり買い物の代金などは家族請求となっているが、希望があれば買い物に行ける環境を作っている。 		

グループホーム西山の郷(1階だけ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・年賀状や暑中見舞い等は継続しておられ、はがきの購入や投函等を見守っている。 ・携帯電話を使用されていた方もいられたが、聴力の低下により現在は使用されていない。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・1Fは玄関とつながっており、玄関内の棚には季節の花が生けられ、置かれたソファーに腰を掛けてゆったりとできたり、外来者に親しく接する機会も多くあり、自由な行き来は、家庭的な空気をかもし出している。 ・居間・兼食堂はスペース的には狭さを感じることもあるが、テーブルの配置を工夫したり等、共有空間に暖かさや居心地のよさを感じさせている。 ・大きな浴槽は、ゆったりと入浴を楽しむことができ、スタッフは介助を通して、利用者と親しくコミュニケーションをとることのできる場となっている。 ・共用スペースについてはトイレの換気や除染の対応等、清潔に保つよう職員全員が都度、清掃を心がけている。 	<p>玄関先やベランダで花や野菜を育てるなどして四季を感じてもらっています。トイレや浴室の入口は段差を解消しています。暖色系の照明を使用し明るすぎないよう配慮し、トイレや脱衣室の暖房や加湿器、空気清浄機を使用し居心地良く過ごせる支援をしています。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居間のテーブルの配置を変えたり、食事の時以外は、利用者が、その都度、自由に好きな席に座って好きなことをしたり、また何人かが集まってゲーム、合唱等したりしている。同じ空間にいながらもそれぞれがしたいことをしていても違和感がなく、穏やかで落ち着く空間と、元気で明るい空間を皆さんが作り出しておられる。疲れた時等、自分の体調や気分も大切にされて、一人になりたいときは居室でゆっくりとされている。お一人おひとりのこうした居場所を大切に頂くために、スタッフは常に見守りと関わりへの配慮をしている。 ・ご自身の家で過ごすようにソファーにて横になられてくつろいでいる方もいる。 		

グループホーム西山の郷(1階だけ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・畳の上にふとんを敷いて就寝することを生活習慣にしてこられた方は、その習慣を大切にしている。家具等は、今まで使用してきたものや、家族と相談し、自分の好みの座椅子を使用したりしている。ご家族の写真を貼っておられる等、ご家族との繋がりを大切にされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洋間と和室が用意され、一部は二間続きの居室もあります。利用者は希望に沿ってベッドや布団で休む事が出来、こたつやテレビを置いて寛いでいます。自宅からタンスや冷蔵庫、仏壇、オルガン、鏡台等を持参し、家族の写真や造花を飾るなどして心地よい居室作りをしています。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・開所以来11年近くお住まいになっておられる方にとっては、居間・台所や洗面所と様々な空間が、ご自分の記憶の中での最大の馴染みとして安心できる場所になっていると思われる。 ・刻まれた歴史の中での、知っている、分かっている自分の場所に、建物と共にスタッフとの気持ちの交流から、ことばの理解はできにくくなっていても、見覚えがあるものや手続き記憶を大切に混乱しないように心がけている。 ・居室の出入り口や廊下には手すりが設置されている。 ・居室入り口には段差はあるがスロープ状になっている所の滑り止めにて対応している。 ・トイレや浴室の掲示をしてわかり易くしている。 ・新しいご利用者の方にはトイレや居室への移動に付き添い、安心・安全に過ごしてもらい、早く慣れてもらえる様心がけている。 ・新しいご利用者も徐々に施設内に慣れて、見守りの中でトイレ、ご自身の居室にご自身で向かう事が出来ている。 		